

議員定数に関する調査特別委員会記録

令和6年10月22日（火）午後1時00分～午後1時43分（9階909会議室）

○出席委員（11名）

委員長	半沢 正典
副委員長	斎藤 正臣
委員	高木 直人
委員	浦野洋太郎
委員	佐藤 勢
委員	山田 裕
委員	遠藤 幸一
委員	根本 雅昭
委員	川又 康彦
委員	羽田 房男
委員	黒沢 仁

○欠席委員（なし）

○議会事務局出席者

議会事務局長	佐藤 光憲
議会事務局次長兼総務課長	山田 正明
総務課庶務係長	神野由希子
議事調査課長	加藤 淳
議事調査課課長補佐兼議事係長	梅津 司
議事調査課主査	佐藤 祐介
議事調査課主査	本田 雅大

○案 件

- 1 本市議会議員定数のあり方について
- 2 その他

午後1時00分 開 議

(半沢正典委員長) それでは、皆さんおそろいですので、これより議員定数に関する調査特別委員会を開催いたします。

まず、1で本市議会定数の在り方についてであります。まず先週行政視察、横須賀市、そして小山市、2市を視察してまいりました。委員の皆様は大変ご苦労さまでございました。記憶が薄れないうちにということで本日の委員会を設定したところでありますので、各委員ごとに行政視察の振り返りを行いたいと思います。

それぞれまとめてきていただいたと思いますので、まずは黒沢委員からお願いいたします。

(黒沢 仁委員) 横須賀も小山もやっぱり人口が減少というような時代の流れの中で定数の削減を考えざるを得なかったというのが現状かなという思い。結局あと仮に定数を減らすにしても、委員会の構成とか、今まで我々が定数を議論する理由づけというような部分はそれぞれ皆当てはまる部分かと思うのですけれども、やっぱりこの人口減少社会の中で、1万人に1人というのは、横須賀でしたか。その1万人に1人という根拠もよく分からなかったのですけれども、簡単な数字合わせの部分もあるのかなというような印象を受けました。ただ、小山市においては人口減少が鈍化しているにもかかわらず、市民の要望というか、そういった部分も考慮に入れて、何十年も議員定数削減という問題に触れないで来たから、この辺で考えなくてはいけないというような、いわゆるトリガー、きっかけといった部分が、やっぱり人口減少という大きな波の中で、両方とも議員定数削減だね。削減という流れに至ったという点においては、なかなか今後やっぱり地方創生というような時代の流れもある中で、また複雑化、多様化した市民の課題解決の中で、果たしてどういった方向で検討していったらいいかというような部分がなおまた難しい問題だなと感じました。

以上です。何だかまとまりのないような話で。あとは正副委員長に任せます。

(佐藤 勢委員) 黒沢委員と同じような形のものなのですが、人口減少推移、この辺りと、あと委員会の運営、やはりこれを参考にされているところはあったなというふうに思いました。また、市民の声というものをしっかりと聞きながら検討すべき必要があるかなと。どの市でも、視察もそうですし、ほかの市もやはり議員の削減というのはされている傾向にあったなというふうには思います。また、視察先では常設の検討委員会、議員定数に関する常設の委員会が設置されていました。そこまでは必要ないかなとは思いますが、やはりどこかのタイミングで、どこかのターニングポイントで特別委員会を設置するというものも、今後検討すべきものになるのかなというふうに思ったところでは。

以上です。

(浦野洋太郎委員) まず、横須賀市からですけれども、説明があったとおり、全国でも人口減少がトップクラスの横須賀市ということで、それに連動した形で議員定数削減の必要性という形で、結果として2期連続で1人ずつ削減したわけですが、やはり印象的だったのは、黒沢委員がおっしゃ

ったとおり、人口1万人当たり議員1人の考え方、またさらに参考人招致や有識者、民間人などから構成される第三者委員会の設置については、定数の見直しにとどまらず、報酬を含めて議員の在り方とか、そういった全体に話が波及する可能性があるということで、そういったものの設置などはしないと、あくまで定数については議員自らが決めるのだという、そういった方針というのは非常に重要な観点であり、一つのヒントになるなというふうに感じました。あと、その中で議論の場である常任委員会の構成という点に大分重きを置いて、非常に慎重に議論されて削減に取り組まれたのだなというふうな印象を感じました。

あと、小山市については、20年以上ぶりの定数削減ということで、これまでは定数など議会改革単発化しての議論だったということで、それプラス議員報酬とセットで議論されていたということで、いろいろ経緯とか人口比較、あとこれからの人口予測とか、そういったことを総合的に勘案して2名減になったのだと思うのですけれども、小山市も参考人招致などは実施していないということでありまして、少人数制の部会を開催して、個人とか会派とかではなく、部会としての意見集約をされたという部分では、合意形成の部分に関しては本市のまたこれも一つのヒントになるのではないかなというふうに感じました。

以上です。

(山田 裕委員) まず、横須賀市議会ですけれども、この間定数の議論をしてきたという中で、私自身印象に残った言葉ですけれども、地方議会というのは二元代表制の一翼として間接民主主義の実現を果たすべきその役割と責任がますます増大しているという指摘です。つまり間接民主主義という点で議会の持っている責任と役割が大きなものになってきているというのが議論の中で出されたというのが紹介されました。それから、人口減少だから、議員定数減が必要だという議論の中では、人口が減ったからといって市民の意見の多様性が減るわけではないと、むしろ多様性というのは増えているのではないかなというふうに思うのです。人口減少だからといって短絡的に議員定数減でいいのかという議論がされた。それから、議会には多様な民意を反映させ、積極的な政策立案や効果的な監視機能の発揮が求められており、議員定数の削減は議会の機能低下につながるおそれもあるという警鐘まで鳴らしているというのが印象に残りました。それと、発言でも述べましたが、横須賀市議会の議長の挨拶、議員定数の議論は市民と議会、議員との関係が希薄なところから生まれるという率直な発言があったというふうに思います。続けて、定数削減以前に市民と議会、議員との関係を深めていく必要があるというのはまさに正論だろうというふうに思ったところです。

それから、小山市議会ですけれども、先ほど話がありましたが、議員定数については議員報酬とセットで議論をしたということです。我々は議員定数ということだけで今議論していますけれども、小山市議会の場合は議員報酬と議員定数をてんびんにかけて、議員報酬は現状維持で定数だけ減らすという、そういう結果という話でしたけれども、どうなのかなというふうにちょっと疑問に思ったところです。それから、定数削減をすると市民から議会の信頼が高まるのではないかなという話もありまし

たけれども、これは果たしてどうかなというふうに思いますけれども、つまり議会が何かをやっている感を出す上で定数削減がパフォーマンスに扱われていないかというふうに、私はちょっとそういうふうに思った次第です。それで、現状維持の意見も紹介されましたけれども、まずは議員活動、議員の使命を市民に分かってもらうことが大切だと、そうすれば市民の定数に対する考え方が変わるのではないかと、定数削減により民意、市民の声が薄くなってしまふ、単に減らすことがいいことだと思えない、安易に減らすのはどうかと思うという意見も紹介されました。こういう意見は、先日河村参考人から聴取をしましたけれども、まさにかみ合う中身だなというふうに思いました。河村参考人は、少なくとも民主主義を研究している政治学者は議員の数はできる限り減らすべきとは考えていないというふうに明言しました。議会は住民の縮図だと、本来は直接参加、それが難しいので、代表を選んでいるという、我々の責任が重いものがあるという指摘はそのとおりだなというふうに思ったところです。ですから、市民から定数削減が出るという理由は、やはり議員に対する不信というか、関心の薄さがあるのではないかというふうに思います。議員が果たして議会でしっかり仕事をしているのかという、そういう厳しい目が市民から向けられているということを我々しっかり受け止めて、それでそういう立場で議会活動をするというふうになれば、議員定数の削減というのはあり得ないのではないかというふうに視察をして深く思ったところです。

（川又康彦委員） 私は、今回視察に伺わせていただきまして、横須賀と小山市についてはともに直近で議員定数削減していますが、それぞれの定数を削減する理由というのは相当違うなというのを改めて感じました。まず、横須賀については、人口減少の進行というのは相当急激に進んでいて、本市と比べても多分5年先ぐらいを行っているのではないかなというような形を実感しまして、横須賀については人口減少に伴って、それに伴う適正な議員定数というのは何人なのかという観点からこれまで議員定数の削減を続けてきているという部分を率直に感じました。

一方、小山市については、人口については、関東圏で立地がいいということもあるのでしょうけれども、ほぼ横ばいの状態が直近でもまだ続いていて、これからもそんなに大きな人口減少はまだ見通せないというところで、議員定数を削減するという理由は、議員報酬とセットで考えるというような内容にもあったとおり、山田委員もおっしゃいましたが、他市と比べて小山市は議会費が多いのではないかなというように非常に気にされていて、変な話そのための市民アピールも含めて議員定数の削減という部分で実施しているなというのを改めて感じまして、その在り方については、私としては最初の会議から話してきていますけれども、人口減少における議員定数の適正な在り方だと思っていますので、そういった考え方は少し違和感を感じましたので、こういったものは福島市には合わないのだろうと感じました。

（根本雅昭委員） それぞれの市の削減に至った理由は今川又委員が話したとおりで、同感であります。それぞれ人口減少、厳しい財政状況ですとか、または全国的に定数削減、また近隣自治体も定数削減に取り組んでいるといったそれぞれの理由からこういった検討に入って削減に至ったものでありまし

たけれども、例えばお話を伺った中で、削減をすれば市民から議会への信頼も高まるのではないかという想定で始まって削減したにもかかわらず、説明ですとか質疑の中でそういった実感はないというお話があったりですとか、逆に現状維持の意見の中でまずは議員活動、議員の使命、そういったものを市民に分かってもらうことですか、あとは市民ニーズを的確に把握して市民福祉の向上につなげていくためには相応の議員数が必要であるといったようなお話がございました。そういった中で、人口の観点では納得できる面もあったものの、やはり本市は非常に面積の広い市でありますので、面積ですとか、ほかにも様々な福島市が置かれている事業課題ですとか、そういったものも考慮して考えていくべきではないかというふうに感じた次第であります。また、財政状況については参考人招致でもありましたように、地方交付税の算定根拠にもなりますことから、こういった実際に減らした場合にどのような結果になるのかということも重視して調査していかなければならないのではないかとこの視察から感じたところであります。また、それぞれの市で市民の意見があったという削減なり、ほぼほぼ削減の意見だったようですけれども、そういった市民の意見がどの程度なのかという調査をし切れていないという面も感じましたので、参考人招致にもありましたように、市民の意見を的確に把握するために、アンケート調査などもしっかりとエビデンスを持って進めていくためには、ある程度、もう少しより詳しく把握しておいたほうがいいのではないかというふうに感じました。また、アンケートでもやはり議会の仕組みですとか、本市の取組などをなかなか理解されていない方も多かれ少なかれいらっしゃいますし、またアンケートも全てのアンケートは適当に答えるという方も一部想定しなければなりませんので、そういったことも考慮しながら、慎重にアンケートする場合においても進めていく必要があるのではないかというふうに感じました。いずれにしても、しっかりと根拠を持って調査を進めていくということが重要であると考えた次第であります。

以上です。

（羽田房男委員） どうも視察では大変いろいろとお世話になりました、ありがとうございます。私からは、横須賀市に関しては、横須賀市議会基本条例の中で、議員定数について市民から直接請求があった場合を除き、原則として議員が改正理由の説明を付して提案するものとするということで示されており、議会改革の推進のために検討会議などの会議を常設しているということで、定数について議論を進めてきたということで、平成26年11月の決定で現状維持とした理由については、横須賀市議会の定数が特段多い状況ではないと判断をされましたけれども、平成22年に定めた基本条例に基づき、第1点目として、全ての会議を原則公開としたと。2点目について、本会議、委員会のインターネット中継や毎年議会報告会を年1回から2回実施をしたと。第3点目については、議会だよりを1回から発行回数を増やしましたというような説明があり、様々な市民の意見を反映した政策提言が求められ、これらのために現状程度の議員定数が必要であるという判断をされたということです。しかしながら、平成30年の12月に41人から40人に定数減としたということで、資料の15ページにありますように、定数削減は機能低下につながるおそれがあるため、来期における削減の影響は最小限にとどめる

必要があると記載をされておりました。さらに、令和4年10月に40人から39人に定数減、これは24ページに記載されておりますけれども、1つに定数削減はやむを得ない、2つ目に定数を大きく減らした場合、議会機能の低下につながる、さらなる議会改革の推進にも支障を来す、3番目に新型コロナウイルス感染症の影響など市民の暮らしを取り巻く環境が大きく変化する中、市民福祉の向上につなげていくためには相応の議員数が必要であるという理由は説明資料の中で報告されておりましたけれども、あくまでこれは私見ですが、本市も含め、全国的に多くの自治体で人口減少が続いており、人口減少に歯止めをかけないと議員定数の削減はないとするならば、改選後は次期に向けて必ず定数削減の議論が永遠と続くのではないのかというふうに私は受け止めてまいりました。

小山市議会についてですが、議員定数検討専門部会の検討事項、第5期の議会改革の10ページにございますけれども、1つに、議員定数については議員報酬とセットで議論をされたと。2つ目に、過去の経緯と他市の状況などを総合的に勘案した結果、議員定数2名減とする意見がまとまった。3つ目に、参考人招致や行政視察は実施していない。4つ目に、少人数の部会制の手法を採用したことにより、最終答申の検討をするために議長を除く全議員で構成される議会改革推進協議会において、個々の議員の意見や会派の意見ではなく、部会としての集約した意見をもって議論することができたため、全員の理解を得ることができ、全会一致で可決となった。少々疑問が残りました。議員定数検討専門部会の主な意見として、定数削減に賛成の意見、これは12ページに記載されておりますけれども、市民からも定数見直しの意見が出ていると説明をされておりましたが、私も伺いましたのですが、市民などから定数削減の陳情書の提出はないのでしょうかという問いに対して、陳情等の提出はないという説明でした。極端に定数が減ってしまうと民意を反映できなくなるが、ある程度の削減は必要という説明を受けました。率直に私見としては疑問を感じました。議会として、住民自治を主体的に担う機関として、現在の定数については各議会において正しいと判断された結果、本市では37ということになっておりますけれども、今後も十分議論を深めていくことが求められているのではないのかというふうに感じました。

以上でございます。

（遠藤幸一委員） 横須賀と小山市ということで、先ほど川又委員からありました横須賀と小山市では削減に至った理由というか、もともとの根拠的なものが違うのだなというふうに私も感じたところがございます。横須賀については人口減少が大きかったということと、小山市についてはこれまで二十数年議員定数を減らしてこなかったというところ、それに付随して市民からの意見もあったということで視察の中で聞いたところで、いろいろ感じたところはあったところがございます。その中でやはり市民の意見というところが、横須賀の中でも多少なりそういう話は議長さんからもあったかなと思っておりますし、小山市のほうでも市民の意見が大きかったということもお話があったなと思ったところでありますけれども、やはり私も質問でお話しさせていただいた、小山市のほうで確認させてもらいましたけれども、削減、市民のほうから意見があったにもかかわらず、市民は削減したこと

も分からなかったとか、削減したのに投票率が下がったということで、議員定数に関係するところではないかなというふうに思いますけれども、先ほど山田委員からありましたけれども、ちょっとニュアンスは違いますけれども、やはり市民からの意見に対して削減というか、これから議員定数、今検討しているわけでありまして、それ以前に市民への理解活動をしっかりと促進していくことが重要なのではないかなというふうに個人的に感じたところであります。期間もありますので、そういったところも含めて今後慎重に審議をしながら進めていくべきではないかなというふうに感じました。

以上です。

(高木直人委員) まずは、横須賀市につきましては、先ほど来皆様からお話が出ておりますけれども、一つの基準として人口1万人当たり議員1人というのが出ておりましたけれども、これ私どもの会派が長年にわたって1万人に1人という基準にこだわっておったのがよく私も分からないところで、決して党としてそれを基準とすべきだという打ち出しが出ていることはありませんし、どうして横須賀市についてはそこまでこだわって長年議論されていたのかはちょっと分からないのですけれども、例えばその基準に基づいて本市に当てはめてみれば27名とか26名とかってなってしまうし、それは正しい基準とはやはり私も考えづらいものがありますので、横須賀では東西南北で文化圏がはっきりと異なっていて、谷戸も多く、本当にそういった意味では多様な全市的な地域の意見をしっかりと吸い上げて市政に反映させていく上では、それぞれある程度の議員の人数というものは必要と考えますし、本市では広い面積を有しておりますことから、やはりある程度の、人口という基準ではなくて、やはりそれぞれの地域からの意見を吸い上げるという意味からも、安易に削減とか、そういったことではなくて、ある程度の定数というものは必要なかなというふうに感じました。

小山市につきましても、印象に残ったのは、単に議員定数ということだけではなくて、やはり議員報酬というところもセットで考えておられたということで、確かにそこも一つの大事な観点かなというふうにも感じましたし、あとは小山市も横須賀もそうですけれども、それだけ議会として様々な状況を考えて、人口減少とかいろんな状況を考えて定数を削減という動きがあるにもかかわらず、あまり市民の皆様の関心が薄いといいますか、あまり議会の、政治に無関心というか、そういったところがやはり見受けられるのかなと。そういった意味では、今ほど遠藤委員からも話ありましたけれども、やはりもう少し市民の皆様から議会というか、こういった仕組みで皆様の生活に深く関わっており、しかもそれを決める議員というものが適正に配置されるべきであるということをやはりいろいろと知っていただくことも重要なのではないかなというふうに感じましたので、そこはこれから本市においてもより、議会報告会も今行っておりますけれども、そういった様々な機会を通じて市民の皆様にとしっかりと市議会とか、そういった市政への取組というか、そういったところをどんどんと理解を広げていければなというふうに感じました。

以上でございます。

（斎藤正臣委員）横須賀にあっては人口減少が著しいということなのですけれども、別な委員会の所管事務調査でも全国で人口減少が、50年後には7割ぐらいになると。本市はどうなのだといったときに、20年前倒しで同様の将来人口推計というものが見込まれているというような話があって、もちろん人口が減ったから、安易に議員の定数がどうのこうのということではないのかもしれないのですけれども、議会の在り方を考える中で、本市の人口減少率というのは無視できるものではないと横須賀の事例を聞きながら強く感じたところです。

あと、小山市は福島市と状況があまり似通ったところがなくて、印象的だったのは、議員定数を減らしたのだけれども、あんまり投票率には影響なかったし、なかなかPRにはなっていないのだよというようなことだったのですけれども、議員定数を減らしたから、議会の重要性というものが認知されるものではそもそも私はないと思っていて、議会の在り方を議員が決めることと、議会の重要性というものを市民に広くPRすることというのは全く別物であって、市民へのPRのために議員定数を減らす、増やす、そういった議論をするものではそもそも私はないと思っていましたので、その自分の考えを再認識したというようなことで終わりました。

以上です。

（半沢正典委員長）ありがとうございました。

私のほうからは特段、委員の皆様の意見を集約する立場から、あまり自分の意見を申し上げることは無いのですが、ひとまずいろいろ横須賀、小山で議員定数の動機とか経緯とか、また仕組み等のいろいろな考え方があって、それぞれ市の長年の民主主義に基づく議会運営の中でそのような形をつくり上げてきたのかなというふうに思いました。それはそれで市独自のやり方ということで、大変参考になったというところであります。

当市議会については、重ねて申し上げておりますが、議会基本条例に在り方の検討の仕方はもう既に明文化されておりますので、2市の取組等も参考に入れながら、今後は本市の議会基本条例に基づいた定数の在り方の検討をこれから深めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

意見開陳については以上とさせていただきます。

それでは、（2）の今後の委員会の進め方についてであります。

議会基本条例第9条第2項に基づきまして、人口、面積、財政状況及び市の事業課題、類似市の議員定数の観点からそれぞれ検討を行いたいと正副委員長としては考えておりますが、皆様、いかがでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

（半沢正典委員長）異議なしと認めます。

それでは、資料の1をちょっとご覧ください。今ご承諾いただきましたが、資料の1の記載のとおり、各党派でそれぞれまとめていただきたいと思います。内容的には、記載のとおり、今ほど言った5つの項目について、まず人口の観点から見た議員定数の在り方、現状維持、増、減等を含めご

記入くださいというふうに記載されておりますが、なお増、減の場合におきましても具体的な人数については現時点では記載していただくことは求めませんので、現状維持または増やすべきとか、減らすべきとか、そのような記載で結構です。具体的な人数になりますと、人数がちょっとひとり歩きし始めると議論の核心が見えなくなる可能性もあるというふうに正副委員長で考えたので、今回の持ち帰りシートにおきましては人数等を記載しないでください。続いて、2つ目としては市域面積の観点から見た議員定数の在り方、3つ目については財政状況の観点から見た議員定数の在り方、裏面を見ていただきまして、市の事業課題の観点から見た議員定数の在り方、そして5つ目、類似市の議員定数の観点から見た議員定数の在り方につきまして、今までの記載させていただいた資料、そして参考人招致、また今回の視察等を参考にしながら、会派のほうで十分議論した上で記載をして提出いただきたいと思います。提出期限については、11月6日水曜日までに議会事務局議事調査課までご提出をお願いしたいと思います。2週間ということであまり間がないとは思いますが、できるだけ会派の意見を集約した中でご提出をいただきたいというふうに思います。

この件につきまして何か質問等がありましたらお願いいたします。

（浦野洋太郎委員） 財政状況の部分の観点のところなのですが、以前参考人招致で河村参考人からも議員定数の増減というのは、いわゆる減は行財政改革に大きく貢献しないとか、また財政に影響するわけではないというふうな見解いただいたのですが、さらに議会費などのそういった地方交付税などは公費で全額措置されているようなお話がありましたけれども、ただその部分については、我々会派としても少し実際のところ本市においても本当に負担がないのかとか、そういった疑問の声というのは上がっておりまして、こういった意見集約とかという部分にぜひ参考にしたい部分で、少し何かそういった本市の財政状況の、特に議会費などのそういった資料など参考になるものがあれば出していただけるとありがたいなと要望の一つであります。

（議事調査課長） まず、議会費の資料につきましては、これまでの多分2回目の資料に議会費の全体的な金額であるとか、こういうものはご提示をしております。なお、それでも不足であればまた追加で準備をいたします。あと、交付税につきましては、交付税が全て議会費をフォローしているのかという部分、私も参考人の先生の話聞いていまして、果たしてそうなのかなという部分はちょっと感じたところもございますので、ちょっと財政当局のほうに交付税の算定の仕組みであるとか、全部フォローされているのかどうか、そういう点につきましては事務局で確認いたしまして、次回までにご回答するような形で準備をしたいと思います。

以上でございます。

（半沢正典委員長） では、そちらのほう資料をそろえていただきたいと思います。

ほかにはございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（半沢正典委員長） それでは、タイトなスケジュールであります、11月6日までに事務局へご提出

をお願いしたいと思います。

それでは、2のその他についてであります。

(議事調査課課長補佐兼議事係長) 事務局から1点ご確認、ご協議をお願いしたい点がございます。資料のGG②、市議会だよりというものをに入れてございましたので、お開きいただければと思います。早いところだとあさって【後刻 あしたと訂正】からになりますけれども、秋の議会報告会開催をされます。お載せしました資料が11月1日発行の市議会だよりの最後のページになります。議会報告会の中で各常任委員会、それから特別委員会の活動の内容についてご報告いただく時間があるかと思えますけれども、議員定数の特別委員会については当日の配付資料でもこちらの資料の右側に載っております参考人招致の様子などを載せた部分を掲載いたしまして、直近の活動内容について報告をさせていただきます。それぞれ班会議の中で役割分担されているかと思いますが、こちらの議会だよりの内容によって委員会の直近の協議の経過というものをご報告いただければということでの事務局からの確認でございます。

以上でございます。

(山田 裕委員) 今の発言であさってからと言いましたけれども、あしたからですね。

(議事調査課課長補佐兼議事係長) すみません、発言訂正。23日、あしたでございます。失礼いたしました。

(半沢正典委員長) ということで、各班で既に役割分担、そして持ち時間等を決めていただいたこととは思います。特別委員会の報告もありますことから、参考に、参考資料として考えていただければなというところで皆様のほうに提示をさせていただきました。

それでは、その他ほかには。

(川又康彦委員) ひょっとしたら終了後に次の日程の話とかがあるのかもしれませんが、先ほど11月6日が締切りという話をいただきまして、今回連休に入って、本当に相当タイトなスケジュールだと思っていて、できるだけ会派でまとめて議論したいと思っているのですが、4月のスケジュールですと、11月に振り返りと、議員定数の在り方という形で丸が2回あるので、2回開催するのかなのかははっきり私も分からないのですが、次のスケジュール上、6日にしないとどうにも間に合わない感じなのかご確認いただきたいのですが。

(半沢正典委員長) 委員会を閉じてからでいいですか。

(川又康彦委員) はい、結構です。

(半沢正典委員長) ほかにその他でありましたらお願いしたいと思います。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(半沢正典委員長) それでは、これをもちまして議員定数に関する調査特別委員会を終了いたします。ご苦労さまでした。

午後1時43分 散 会

議員定数に関する調査特別委員長 半 沢 正 典